

平成 26 年 4 月

佛乗寺檀信徒の皆様へ

佛乗寺 住 職 笠原建道
総 代 廣田正至

佛乗寺のシンボルツリーともいえる杏に、花が咲いた、と悦んでいたのが先月のことでした。あっという間に若葉が芽を出し、今は日陰をつくるほどに成長しています。

杏を追いかけるようにして、枝垂れ桜も花を咲かせました。この桜は日本三大枝垂れ桜といわれている福島県の「三春の枝垂れ桜」の子供か孫だそうです。本堂が新築された時に、ご近所にお住まいの方が植えて下さったものです。これまでは花がついてもほんの申し訳程度でしたが、今年は素敵な花を見せてくれました。

さらに嬉しいことに、チューリップも彼ら彼女たちに負けじとばかりに見事に咲いてくれました。

花粉症対策で悩んでいる方々には、春なんか来なくてよい、と思うでしょう。いつまでも冬でよいの、と仰います。ご心情と苦痛はご理解いたしますが、それでも春は心が弾みます。

『白米一俵御書』には

爾前の経々の心は、心のすむは月のごとし、心のきよきは花のごとし、
法華経はしからず。月こそ心よ、花こそ心よと申す法門なり。

(御書・1545頁)

とございます。恐れ多いことですが、御意を拝しますと、爾前、つまり念仏や真言や禅では、月や花を我が心の対象として見ることを教えますが、法華経は、月を見て即我が心である、花を愛でるその心が我が心である、という教えである、というものです。

つまり、月や花が別のものではなく、私たち人間と、月の満ち欠けや花が咲き実を付ける自然界の出来事も、一体のものであることをこの言葉で教えて下さっているのです。

私たちはこれまで多くの自然環境を改変し、人間の都合のよいようにして生きてきました。それによって便利な日常生活を営んでおります。これからもそれは続くと思えます。その時に、この御書に示される、春になれば咲く花と、私たちは別のものではない、月と私たちを隔てるものはない、との思いを忘れることのないようにしたいものです。

これからは本堂東側のアメリカ花木が花を咲かせ、五月の連休頃までは、参詣の目を楽しませてくれることと思えます。

寒暖がある季節です。今年は春になってもインフルエンザが流行している、との新聞記事も目に致しました。御自愛の程お祈り申し上げます。